

大阪・日置荘遺跡

- 1 所在地 大阪府堺市日置荘原寺町
- 2 調査期間 一九八九年(平一)一〇月～一二月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会・財大阪文化財センター
- 4 調査担当者 入江正則
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 六～一七世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

日置荘遺跡は大阪府の南東部に位置し、旧南河内郡にある。堺市および美原町にまたがる総延長3kmの広大な遺跡であり、美原町区域では日置荘遺跡と呼ぶが、ここでは両遺跡をあわせて日置荘遺跡と称する。

遺跡は標高四〇～五〇mのきわめてなだらかに南から北へ降る中段丘上にある。遺跡の東側には南から北へ西除川が流れ、西側に

は和泉国と河内国を分ける分水嶺である西高野街道が通る。中世の城郭も多く、大饗城、野田城、池尻城、陶器城等が知られている。また周囲の丹上遺跡、真福寺遺跡、太井遺跡等からも、鉾、トリ、鋳型、ふいごの羽口等の鋳物師が使用した遺物が数多く発見されており、中世鋳物師の拠点でもあった。

日置荘遺跡の集落遺構は掘立柱建物数棟、井戸等が一群となり、それぞれの一群は溝で区画されており、これらの溝の区画が相接して密集している。区画は判明するだけで東西約一三〇m、南北約四〇mのもの、四〇m×三〇m、三〇m×二五m等さまざまなものがある。これらの遺構から、炉跡や熔解炉の基部等とともに、瓦器碗・瓦質鉢・瓦質羽釜・瓦質甕・瓦質花瓶等が発見されている。

日置荘遺跡は旧石器時代の石器片かと思われる遺物が最も古く、次の縄文・弥生時代の遺物はほとんどない。古墳時代前・中期の遺物もないが、古墳時代後期(六世紀前半)には掘立柱建物等が西除川沿いに出現し、開発が始まったと考えられる。ついで六世紀後半には遺跡内の二、三箇所において須恵器窯が築かれ、須恵器が大量に焼かれる。また埴輪窯も構築され、埴輪も作られる。しかしこれらの窯業生産は絶えてしまい、奈良・平安時代には続かない。しかし掘立柱建物は、場所を違えて七世紀から八世紀代に集落を作っている。この集落は一〇・一一世紀頃まで続くようである。この後に場所を違えて、一二世紀頃から一六・七世紀頃まで集落が続く。

今回対象とする墨書のある折敷が出土した井戸の周囲は、先述の溝に囲まれた区画のある集落内にあたる。この後近世から現在まで、この集落は引き継がれて現在は日置荘原寺町と呼ばれている。

折敷の出土した遺構は、径二・六六m、深さ三・五m以上を測る井戸である。折敷は井戸の中層、深さ二m付近の灰色土層から出土した。井戸から、瓦器碗・瓦器小皿・瓦質鉢・瓦質甕・木片等が大量に出土した。遺物はおおよそ一三世紀中頃から一四世紀前半にかけての年代観を示している。

8 木簡の积文・内容

(1) 「迷□□□□□十方空

本来□□□□□□□□□□

273×(69)×4 061

(2) 「悟故十□□□」

本来□□□□□□□□□□

273×(61)×4 061

(3) 「迷□□□□□」

本来□□□□□□□□□□

273×(64)×4 061

(1)は三点の折敷の中で最も濃く文字の残っていたものであるが、右に示した程度しか解説できない。そして(1)(2)(3)の墨書を比較すると、三点とも同じ文字があり、同一文を示すものと推察される。この三墨書を同一文として重ねあわせると、左のごとく整理される。

「迷□□□□□ 悟故十方空

本来□□□□□ □□□□□□□□

ところで中世の地鎮や呪咀に用いられた句として次のものがある。

迷故三界城 悟故十方空 本来無東西 何処有南北

右の句が三つの折敷に書かれていたとした場合、非常に整合性が高く違和感も少く、そのように考えてほぼ誤りないと思われる。

この句は修験道で、主に地鎮祭、呪咀返し、金神様を除く法等に用いられる。四つの句で結界をもうけて、中央に対象となる物をおき、鬼・邪気・悪霊・呪い等から守り返す働きがある。これを四方に貼るか、立てるかする事も考えられ、四枚一組とも考えられる。折敷の裏板としても、残り一枚で正方形になり、都合が良い。

このような目的で書かれた折敷が、なぜ井戸に埋められるに至ったかは不明である。

同じ呪句を記したものは、岡山県長船町の助三畑遺跡、静岡県の小川城遺跡、広島県福山市の草戸千軒町遺跡でも発見されている。

なお、三点の折敷の积文の作成、意味と資料については、奈良大学水野正好氏の御教示を得た。

9 関係文献

大阪府教育委員会・大阪文化財センター『日置荘遺跡 その一』(一九八八年)

同『日置荘遺跡 その二』(一九八八年)

同『日置荘遺跡 その三』(一九八八年)

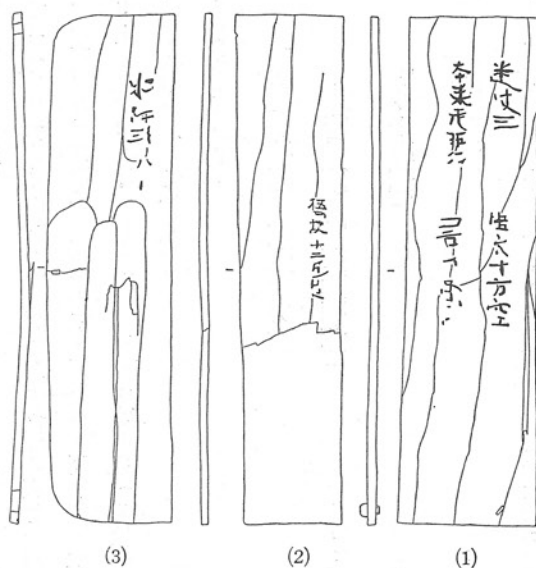
同『日置荘遺跡 その四』(一九八八年)

同『日置荘遺跡 その五』(一九八九年)

同『太井遺跡 その四ほか日置荘遺跡 その一―二』(一九九〇年)

同『日置荘遺跡 その二―六』未刊

(入江正則)



大阪・上町遺跡

うえまち

1 所在地 大阪府泉佐野市上町三丁目

2 調査期間 一九八九年(平1)九月～一九九〇年三月

3 発掘機関 財大阪府埋蔵文化財協会

4 調査担当者 重金 誠

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 一四世紀末～一五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上町遺跡は、泉佐野市街のほぼ中心部、海岸線からは直線距離で約一〇〇〇mに位置する。付近一帯は、天福二年(二三四)に九条

家によって立荘された和泉国日根荘として知られるところである。

本遺跡は、一九八七年度に泉佐野市教育委員会が実施した、南海電鉄泉佐野駅駅上地区再開発事業に先立つ確認調査によって、中世の遺物や掘立柱の柱列等が



(岸和田)